

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	きゃらっと		
○保護者評価実施期間	2026年1月16日		～ 2026年1月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 17名	(回答者数)	17名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 23日		～ 2026年 2月 6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 8名	(回答者数)	8名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月6日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたち一人ひとりに合った活動支援をおこなっています 利用者本人が褒められ、それを自信につなげている	その日の体調によって活動範囲を限定し制作やダンス、ミニゲームなど無理なくおこない自己達成感を伸ばしけるよう取り組んでいます また子ども同士の関わりを大切に、挨拶・順番・気持ちの伝え方などソーシャルスキルを育む活動を日常的に取り入れています	自発的に子ども発信が出来るよう、スタッフがタイミングを見計らって更にサポートすることで今後も詩の群読や今日頑張ったことの発表等出来るよう自信につなげていく 活動プログラムが固定化しないよう、スタッフチーム一丸となって話し合っていく
2	子どもたちが安全かつ快適に過ごせるよう、ハード・ソフト面での環境整備に注力しています 施設面ではバリアフリー化を徹底し、身体状況に関わらず自立して活動できる環境を整えています	徹底した感染症対策マニュアルの実践の継続、スタッフの資質向上を目的とした虐待防止や意思決定に関する内部研修をおこない子どもたち一人ひとりの尊厳を守り、安心できる環境づくりを構築しています	車イスのお子さんや感覚花瓶をお持ちのお子さんの視点に立ち、定期的に室内環境の点検、ヒヤリハットの活用をおこない、より衛生的かつ安全な環境改善をいたします
3	地域交流の一環として様々な体験型療育プログラムを展開しました 世代間交流の促進ともなり開かれた事業所づくりとなりました	けやき体育館でのイベント参加でポッチャ&カローリング、長期休みを其他の事業所と連携してよさこい踊りをしたり機織り体験や紙づくり、火おこし体験など伝承文化に触れています	子どもたちが地域社会のかけがえのない一員としての実感を持ち、将来の自立に向けた豊かな社会性を育めるよう体制を強化していきます

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	日々の活動内容や支援内容の意図など保護者さまに十分に伝わっていないことがある	季節の制作や手話活動などどのような力が身につくかなどお便りやブログなどを通じた情報発信が不足していたと考えます	今後は活動中の写真や文章等で効果的に活用し成長のプロセスをより可視化して共有する工夫を強化します
2	限られたスタッフ数の中で個別対応に注力すると集団全体の活動の広がりときに手薄に感じる時がある	活動の質を向上させてしまったためにおこってしまったと考えます	制作工程を一人でできる工程とサポートが必要な工程に明確に分けスタッフが効率的に介入できる仕組みを担っていきます
3	自己評価にとどまっており、第三者による客観的な視点からの評価を受ける機会を持っていない	出来る機会が極端に少ないため	さがみこども福祉協議会の共有会で他事業所との相互評価をしたり保護者アンケートの深掘りをおこない、単なる集計だけでなくもっとより良い場所にできるように検討していきます